

研究題目：

昆虫における共生微生物保持器官の形成と維持機構

---

氏名：後藤 寛貴

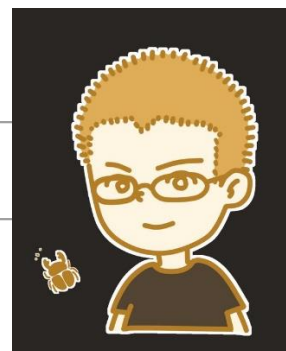
---

所属先：静岡大学

部署：理学部 生物科学科

役職：助教

---



---

### 自己紹介

2012年に北海道大で学位を取得し、その後国内外4機関でのポスドク期間を経て、2021年より静岡大学で助教として着任し、研究室を主宰しています。ラボを持って4年目となりますが、大学院生や卒研究生が増えたことで、様々なテーマに手を広げることが可能になり、日々新たな発見があり、充実した毎日を送っています。

趣味は卓球で、顧問も務める卓球部の練習に参加して学生と共に技術の向上に努めています。

---

### 研究紹介

大学院生の時から、かれこれ15年以上クワガタムシを主な対象に発生生物学的な研究を行ってきました。クワガタムシは生物学的に面白い現象をいくつか有しております。例えばオスとメスで大きく姿が異なる「性的二型」、幼虫時の栄養条件で形態が大きく変わるといいう「表現型可塑性」、そして体の中でも特定の部位（大顎）のみが非常に大きく発達する「部位特異的発達」といった現象が挙げられます。これらの現象について、その発生学的背景を研究してきました。また、クワガタムシの他にも、昆虫全般で見られる、「脱皮前に『折り畳んだ状態で』脱皮後の新しい外骨格を形成し、脱皮の際に『展開』することで脱皮を介して形態を大きく変化させる」という現象に注目し、その発生学的背景についての研究も行っています。

研究室を主宰してからは、これまでの研究テーマを引き続き発展させる傍ら、「クワガタムシ」自体の生物学について、自然史科学的な研究も始めております。今回、助成に採択して頂いた研究テーマでは、クワガタムシと共生する微生物の維持に関わる共生器官について、その形成や維持を担う発生学的な仕組みを明らかにしたいと考えています。